「自然広場から： 近隣の自然の変化に目を向ける　No.21
夏、われらの季節！　Summer, our lively season」

2020年8月7日

先号では、ジメジメした梅雨の期間に生き生きしているキノコに目を向けたが、梅雨明けの強い夏の太陽を待っていた草花たちの登場である。高い空と雲、空気も一変した。8/3は満月でもあった。

先ず、古代蓮（大賀ハス）。花のかたち、色が神々しい。葉の上には梅雨の後の水粒が乗っている。近隣の東覚院の境内に毎年見に行くのが楽しみにしているが、今年は最後の一花に出会えた。次のムクゲは、代表的な２色と珍しい八重。熱帯の花ハイビスカスと同じ仲間に分類されているが、やはり違って見える。韓国の国花（無窮花（ムグンファ）＝粘り強い花）であり、旧約聖書(雅歌)に出てくるシャロンのバラ。シャロンはイスラエルの地名で、旧約時代には神の約束の地と信じられていた。

ウバユリ：芦花恒春園内に群生している。職員が種から育てられ、今では園の名物となっている。なぜ姥百合？「熟年（花期)を迎えて歯（葉）が無くなってしまった姥のようなユリ」など諸説ある。ミソハギ（禊萩）：萩の代わりに禊ぎ（水浴／神事）に使われたからと言う。別名、盆萩。夏にふさわしい花だ。

サルスベリ＝百日紅。名の由来：木肌がつるつるしているので、猿も木から落ちるだろう。夏の 100 日間も赤い花をつけるから（難しい漢字名の例）。最近、背の低い園芸種の百日紅を目にする。“夏&夏”中、花を咲かせるという英名。最後は、風船唐綿というフーセンカズラを思わせる珍しい木(アフリカ原産)。風船の中には綿毛が詰まっている。乳白色の花が美しい。

ヒマワリはまだ若芽、朝顔、葵の花がすでに咲き始めている。つづきは次号で。

http://sengawacx.com/LookNatureNo21_2020.jpg